

出題方針

世界史では配点各50点の大問3題で、時間は75分です。記述問題と記号選択問題が混合して出題されます。記述問題では、人名、地名、歴史学上の概念などを正確に記述することが求められます。記号選択問題では、大きな歴史の流れ、異なる地域の相互関係などを正確に把握していることが必要になります。

出題範囲は世界史の教科書の記述内に留めるように注意を払っています。その理由は、受験生が学校での授業や学習を軽視して受験の準備にのみ埋没してほしくないからです。試験で問うのは、いずれも教科書に記されている基礎的な内容です。専門的な知識は大学に入学してから学べば良いので、高等学校では基本的な歴史への見方を養ってください。

歴史への見方について、以下の点にも注意を払っていただきたいと思います。

一つ目は、長期的な歴史の流れを理解することです。世界史の問題は、古代から近代・現代までいくつもの時代にまたがる通史的な問題が大半を占めます。そして、各大問の中でも、ある特定地域の歴史の流れを理解していることが求められます。たとえば、2月6日の〔Ⅱ〕は、税制度、流通網などを交えて、唐代から明代に至る中国経済の変化を扱っています。2月10日の〔Ⅰ〕は、古代から近世に至るまでのブリテン島の歴史を、ヨーロッパ大陸の諸勢力との関係を軸に扱っています。

二つ目は、同じ時代の中での地域間の相互関係や比較することです。いわゆる「大航海時代」以降は、世界が一体化しますが、それ以前にも地域を越えた人の交流はありました。2月7日の〔Ⅱ〕は、中国とインドのあいだに位置している東南アジアを軸にして、前近代において交易を取り上げています。2月9日の〔Ⅱ〕では、唐代の中国と西域との交流を扱っています。これらのように真正面から交流を扱う問題だけではなく、2月6日の〔Ⅲ〕のように、近代ドイツを主領域とする大問で第一次世界大戦とその後の展開に触れたうえで、隣国ポーランドでの歴史の展開について問うということもあります。

三つ目には、歴史の理解を深めるためには、政治の動きだけではなく、文化にも注意を払う必要があるということです。2月6日の〔Ⅰ〕では、古代ギリシアで生まれた「知」が、東方へと伝わって独自の発展をみて、中世にはシチリアを介してヨーロッパに受容されていく過程を問うています。2月7日の〔Ⅰ〕は、中世から近世のヨーロッパにおける文芸、思想、美術などを取り上げています。

四つ目には、中国や欧米の大国だけではなく、これまでの歴史のなかで周縁的に扱われていた地域にも目を向けることです。2月5日の〔Ⅱ〕は、朝鮮半島を中心としています。2月8日の〔Ⅱ〕は、イスラーム世界における3つのトピックを取り上げ、トピックごとに時代・地域の特性を問うとともに、この3つのトピックを年代順に並べる問題も出ていて、総合的にイスラーム史を理解することを求めています。2月9日の〔Ⅲ〕では、近世から近代にかけてのラテンアメリカの歴史を扱っています。

五つ目には、現代との関わりです。歴史は過ぎ去ってしまった過去ではありません。2月5日の〔Ⅲ〕、2月7日の〔Ⅲ〕、2月10日の〔Ⅲ〕では、イギリスのインド植民地、フランスのインドシナ、アルジェリア植民地の問題が取り上げられています。こうしたテーマは今日におけるインドとパキスタンの対立、マグレブとヨーロッパの関係を理解するうえでも重要なことです。

[102]	出題の意図
〔Ⅰ〕	フランク王国が分裂し、その中から今日のフランス、ドイツ、イタリアにあたる国々が形成され、ヨーロッパ中世社会が成立してゆく過程および、これに関連する幅広い歴史事象についての知識を問う。
〔Ⅱ〕	古代から近世にかけての朝鮮半島の歴史と、これに関連する国際関係や、朝鮮半島への中国文化の影響などに関する知識を問う。
〔Ⅲ〕	イギリスによるインド支配を中心に、帝国主義時代の列強による植民地獲得競争と、これに対抗する諸民族の抵抗運動に関する知識を問う。
[103]	出題の意図
〔Ⅰ〕	古代ギリシアで生まれた「知」が、東方へと伝わって独自の発展をみて、中世にはシチリアを介してヨーロッパに受容されていく過程および、これと関連してヨーロッパとアジアの中世史に関する知識を問う。
〔Ⅱ〕	税制度、流通網などを交えて、唐代から明代に至る中国経済の展開を、地理的な側面も含めて理解しているかを問う。
〔Ⅲ〕	帝国の成立、帝国主義的対外膨張主義、第一次世界大戦を経て十一月革命による帝政の崩壊までのドイツ近代史に関する知識を問う。
[104]	出題の意図
〔Ⅰ〕	中世末期から近世初頭のヨーロッパ社会の混乱の中から生まれるルネサンス文化および宗教改革と関連付けながら、思想、芸術、文芸、科学技術など幅広い文化について問う。
〔Ⅱ〕	前近代において東南アジアが諸文明をつなぐ重要な役割を持ちつつ、独自の文化圏としての地位を築いていたこと理解しているかを問う。
〔Ⅲ〕	インドなどの海外植民地支配の問題を関連付けながら、ヴィクトリア時代のイギリスにおける労働運動や社会主義運動に関する知識を問う。

■世界史

[105]	出題の意図
〔Ⅰ〕	ローマ帝国、および東西分裂後の西ローマ帝国の滅亡とその後の西ヨーロッパ社会、東ローマ帝国の独自の発展に関する知識を問う。
〔Ⅱ〕	ウマイヤ朝、ティムール朝、ワッハーブ朝という前近代のイスラーム世界における政治、文化、交易などを総合的に理解しているかを問う。
〔Ⅲ〕	近世から近代に至るハプスブルク帝国内の政治と国際関係に加えて、近世から近代のヨーロッパ文化についての知識を問う。
[106]	出題の意図
〔Ⅰ〕	修道院などで育まれたキリスト教文化と、十字軍遠征や交易を通じてもたらされたアラビア文化とが発展した中世ヨーロッパの文化について問う。
〔Ⅱ〕	北朝の軍事集団の系譜に連なる唐王朝の国内統治と、西域のさまざまな遊牧民族との対立・交流の歴史について問う。
〔Ⅲ〕	19世紀にヨーロッパの宗主国から独立したラテンアメリカ諸国の歴史を、メキシコを中心に問う。併せて、新大陸において影響力を強めてゆくアメリカ合衆国についても問う。
[107]	出題の意図
〔Ⅰ〕	古代から近世に至るまでのブリテン島の歴史を、ヨーロッパ大陸の諸勢力との関係を中心に問う。
〔Ⅱ〕	イギリスをはじめとする列強の侵略によって社会が混乱する清朝期中国の政治と社会に関する知識を問う。
〔Ⅲ〕	第一次世界大戦、大恐慌、隣国ドイツでのナチズム政権樹立と第二次世界大戦、インドシナなどの植民地独立運動など、さまざまな問題に直面したフランスの対応に関する知識を問う。